

どう使う？ わたしたちの暮らしにあふれる情報

指定校 1 年次 岡谷市立神明小学校 宮脇 史

1 単元名 『わたしたちの暮らしと情報 ～どう使う？ わたしたちの暮らしにあふれる情報～』

2 単元の目標

(1) 主目標

我が国の情報産業や情報化の進展が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えることができる

(2) 具体目標

A【社会的事象への関心・意欲・態度】

- ア テレビ放送と新聞の情報産業と国民生活とのかかわりに関心を持ち、LCVや長野日報について具体的な意欲的に調べようとしている。
- イ 情報化した社会に関心を持ち、岡谷市役所の危機管理課における災害情報ネットワークの活用を具体例として、災害時の情報ネットワークの働きや自分たちの生活とのかかわりについて意欲的に調べようとしている。

B【社会的な思考・判断・表現】

- ア テレビ放送、新聞の情報産業と国民生活とのかかわりに関する学習問題について考えることを通して、情報を発信する側に求められている役割や責任の大きさ、情報を受け取る側の正しい判断の必要性などについて考え、表現しようとしている。
- イ 情報化した社会の様子について、災害情報ネットワークを利用し、必要な情報を共有するとともに、暮らしの中の様々な情報とつなげて判断していくことの大切さに気づき、様々な情報をどのように活用していったらよいか考えることができる。

C【観察・資料活用の技能】

- ア テレビ放送、新聞の情報産業と国民の生活とのかかわりについて、各種の資料やインターネットを活用したり、聞き取り調査などをしたりして必要な情報を集め、放送局の仕事やメディアの特徴、情報産業の発展の様子、マスメディアを通じた情報が国民生活に与える影響などを読み取って、まとめることができる。
- イ 生活における情報の活用の様子について、各種の資料やインターネットを活用したり聞き取り調査をしたりして必要な情報を集め、災害時には、市役所の危機管理課を中心にした災害情報ネットワークを有効に活用していることを読み取ってまとめることができる。

D【社会的事象についての知識・理解】

- ア わたしたちは、生活の中で放送局などのマスメディアから多くの情報を受け取り、それらに大きな影響を受けていて、それらの情報を見分けて有効に活用することが大切であることを理解している。
- イ 情報ネットワークは、災害時などわたしたちの生活をよりよくするために有効に活用され、わたしたちの生活を守ったり便利にしたりしていることを理解している。

3 5-1 単元の流れ (全 21 時間)

時	学習内容	子どもの反応	学習活動・学習問題 学習課題・評価	中心教材 資料評価
2	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災の被災地の様子について、今知っていることを出し合う。 ○震災の情報をどのように手に入れているか出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ行方不明の人がいる。 ・避難生活をしている人がたくさんいる。 ・福島県の原子力発電の事故の放射能漏れのことでいろいろ心配がある。 ・義援金や励ます活動が行われている。 ・復興に向けて少しずつ動き出している。 ・家族との会話・テレビのニュース・新聞記事 ・10ヶ月も経つのに今でも大きなニュースになっているな ・ほとんど毎日、震災に関する記事があるな。 ・テレビ局や新聞社は、どうやって情報を集めているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 『東日本大震災から10ヶ月、今被災地の様子についてどんなことを知っているか。』 『わたし達は、これらの情報をどのように手に入れているのか。』 『毎日、クラスに来ている新聞で確かめてみよう。』 	<ul style="list-style-type: none"> 【A-ア】 東日本大震災の新聞記事
2	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビのニュース番組は、どのように作られているのか調べる。 ○調べて、思ったこと考えたことを言い合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、いろいろなところ（支局・見た人・ネット・人工衛星＝外国・消防署・警察署など）から情報を集めていて、1日に100～300件も集めているんだ。 ・円周会議で、デスク・ディレクター・アナウンサーなどで取材の方法、内容、中心疑問を決めている。 ・記者の驚きや疑問を大切にしながら取材をしているんだ。それに、多くの人が関心をもっていることや関心をもっとほしいことは詳しく、時間をかけて取材するんだな。 ・取材したメモや映像は、すぐにテレビ局に届くように、ネット送信をしたりバイクを使ったりするんだな。 ・取材は1日30～100件する。 ・取材をした中から、ニュースにする内容を選び、打ち合わせの中で、時間、順番、中心内容を決めるんだ。 ・原稿作成をしたら、リライト（手直し、書き直し）をして、耳で聞いてわかりやすい表現にしている。先に結論、次に理由、一文は短く、主語と述語の間をあけないなどの工夫があるんだな。 ・映像編集と原稿作成の時間合わせが大変そうだな。 ・グラフ、図、字幕などを使ってわかりやすく伝えようとしているな。 ・ミスがないように自動番組運行装置を使っている。副調整室で、音声と映像を管理している。 ・ニュースは、短い時間で、正確に、わかりやすく伝えるためにいろいろな工夫や努力をしているんだな。 ・人権、公平、公正にも気を遣っていて大変だな。 ・アナウンサーは、原稿を読むだけでなく、会議にちゃんと出て、内容の意味がわかって言っているんだな。 ・たくさん取材をしたものを全部使わないなんてもったいないな。 	<ul style="list-style-type: none"> 『テレビのニュース番組は、どのように作られているのか。』 	<ul style="list-style-type: none"> 『東日本大震災の新聞記事』 『ニュース番組の現場から』 インターネット教科書資料集

		<ul style="list-style-type: none"> ・大きなニュースは繰り返し流しているけど、こんなに取材しているなら、いろいろなニュースを流した方がいいのにな。 ・たくさんのニュースを制限つけて伝えるのは難しそう。 ・ちょっとしたニュースは、新聞の方がたくさんあるな。 ・地震など急に起こったことをどうやってニュースにして放送しているのかな。 ・そういう現場で取材する記者やカメラマンは、怖くないのかな。勇気があるな。 ・短いニュース番組を作るのに、思ったよりたくさんの時間をかけているんだ。 ・1つのニュース番組を作るのに、すごく丁寧にやっている感じがする。 ・もう一度確かめているなら、間違った情報を流さないから安心だな。 ・でも、どんどん変わっていく情報もあるよ。特に、東日本大震災みたいニュースは、わかったことをまず伝えていくから、前と違うこともあった。 	<p>【A-ア】 【C-ア】</p>		
2	<p>○学習問題①について話し合う。</p> <p>○学習課題①について話し合う。</p>	<p>【信じていい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北に取材に行って、打ち合わせをしているからいい。 ・もう一度資料で確かめたり聞いたりしているから確実 ・「正確に」を大切にしている。 ・”～など”は、他にまだあるかもしれないけど、出ている野菜は信じられる。 ・”～など”の中身は、生産者がわかっているだろうから、摂取しないか、わたし達が知らなくても別に大丈夫。 ・”～など”は関係がない。原子力発電の事故があったのだから、福島県の野菜はみんな危ないとわかる。 ・お母さん達は、ニュースの情報を元にして、自分で判断している。 ・他からの情報もいろいろ入ってくるし、危なくないって言われても危ないって思ってしまう。 ・生産者の身になるとかわいそうだけど、消費者にとっては風評被害は仕方がないと思う。 	<p>【すべて信じてはだめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷制限も摂取制限も”～など”がついているから、見ている人には正確にわからない。 ・他の野菜もあるかも…と不安になる。 ・危なくない野菜も、危ないかもって思ってしまう ・新聞記事のトマトの農家だって、売れなくなってしまって8万個も捨てることになってしまって、生産者が困る。 ・風評被害につながることになるから”～など”の野菜をはっきりと示した方がいい。 ・ないならない、あるならある、はっきりすべき。 	<p>【学習問題①】</p> <p>『ニュース番組で伝えられる情報は、本当に信じていいのか』</p> <p>→</p> <p>【学習課題①】</p> <p>『”～など”は、見ている人に正確な情報が伝わらないのではないか』</p>	<p>薬物野菜の出荷制限・摂取制限のニュース映像</p> <p>風評被害に合った福島産のトマトの新聞記事</p>
1	<p>○学習問題②について話し合う。</p>	<p>【仕方がない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に、お母さん達は、福島県の野菜っていうだけで買わない。他に野菜はいくらでもあるんだから、わざわざ買わない。 ・原発の大きな事故があったのだから、危ないって思ってしまう。怖い。 ・もう福島産は危ないってイメージができてしまっている。 ・実際に口に入れるのは、僕たちで、健康に悪いかも。不安なことはさけるのが普通。 ・枝野官房長官だって、「念のため…」って言って摂取制限を出しているんだから、わたし達だって、念のためと考えてしまう。 ・原子力発電の放射能漏れの影響を調べれば、土に影響があるってわかる。薬物野菜だけでなく他の野菜も危ないって判断できる。そうやって自分で判断していくことが大事。 ・こわい、危ないという強いイメージを崩すくらい、安全性をアピールしていかないとだめだと思う。 ・ただ、テレビで言っていることだけで、放射能のイメージをもつのではなく、もってと放射能について勉強して本当のことを知っていけば 	<p>【仕方がない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちがって作ったお米が危なくないのに危ないって言われて食べてもらえなかったら悲しい。 ・農家の人たちは、それで生活できなくなってやめたりする人も出ている。かわいそう。 ・危なくない食べられるトマトを8万個も捨てることになってはいけな。 ・検査をして安全なのは事実なんだから、それで判断すべきだよ。 ・困っている生産者の野菜を買えば、復興にもつながる。 ・枝野官房長官は、薬物野菜って言っているんだから、そこをよく聞いて、間違った判断をしてはいけない。 ・危ない野菜のことだけでなく、安全な野菜についてもはっきりと伝える方がいい。 ・しっかりとニュースで、もっとはっきりと伝えるべき。 ・”～など”なんて曖昧な伝え方をしているからいけないと思う。 ・ニュースを作る人のせいだけでなく、わたしたち 	<p>【学習問題②】</p> <p>『風評被害が起こるのは仕方がないか』</p> <p>【学習問題③】</p> <p>『少しでも風評被害を少なくするにはどうしたらよいか』</p>	<p>別の風評被害の新聞記事</p>
1	<p>○学習問題③について話し合う</p>				

		<ul style="list-style-type: none"> いい。 放射能の怖さだけでなく、少しあっても大丈夫なんだということも同時に伝えていくべき。 枝野官房長官の「一時的は大丈夫だが、長期的に摂取すると…」というような曖昧なことを勘違いして受け取らないように自分たちも気をつけることが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> もししっかりとニュースを聞くべき。 事実だけで判断して、うわさには惑わされないようにする。 ～などが気になったら自分で調べることもできる。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 発信する側に求められている役割や責任の大きさ、情報を受け取る側の正しい判断の必要性がわかったか。 </div>	【Bーア】 【Dーア】
2	○新聞はどのように作っているか調べる。 ○思ったこと 考えたこと	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記者は、担当分野が決まっています、そこに毎日行ってネタを探してくるんだ。とても大変そうだな。 ニュース番組作りより時間が2倍以上かかって意外だ。 時事通信社から外国のニュースなどを買っている。なんで情報を買うんだろう。 事件、事故の知らせが最初に入ってくる警察記者クラブに毎日行って情報を集めているんだ。よくドラマでやっているな。 「いつ・どこで・だれが・何を・なぜ・どのように」の6つのポイントを大切に記事を書くんだ。でも、なんか書きづらそう。自由に書いた方が、子どもにはわかりやすいと思うな。 逆ピラミッドになっているのは、わかりやすいし、先に結果が書いてあると、その後を読みたくなるな。私も、今度そうやって書いてみよう。 小学生高学年でも読めるような言葉や漢字を使っているって長野日報は言っているけど、そうは思わない。難しいから、もっとわかりやすくしてほしいな。だから、新聞を読む人が減っているんじゃないかな。 事実だけを書いて、記者の感想や考えは書かないようにしているなら、正確そうだな。でも、ちょっとくらい記者の思ったことくらい書いてもいいのにな。 たくさんの記事の中から、社会的影響があるもの（多くの人々の関心事・新しい決まりや研究結果・生活の変化や変化を与えそうなこと・多くの人に広く伝える必要があること）を選んでるんだ。 紙面作りでは、記事のチェックをしたり、見出しをつくったり、広告を入れたり、やるのがたくさんあるな。 校正で、文字や内容の確認をするから間違いはなさそう。 印刷は1時間で6万部も刷れるなんて早い！うちのプリンターは遅いのにな。 午前3時頃までに各地新聞販売店へ送られる。夜中まで働くのは大変そうだな。とてもじゃないけどぼくには無理だ。 号外とかは、どうしてすぐに紙面にできるんだろう。 	『新聞はどのように作っているのだろう』	教科書 資料集 図書館本 長野日報の資料	
1	○テレビからの情報と新聞からの情報、それぞれの特徴を比較する。	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞は、テレビ番組みたいに時間に限りがないから、たくさんの情報をのせられる。 自分のペースで読むことができる。切り取って興味のある記事をとっておいたり、前の情報を見返したりできる。 よくわからない内容は、読み返すことができる。 見出しだけ見れば、だいたいの内容がわかる。 テレビのニュースよりくわしく書かれている。 ○ニュースは、映像があるからわかりやすいし、その時の様子がよくわかる。 わからない字があっても、アナウンサーが読んでくれる。 他のことをしながら耳で聞いて情報を得ることができる。 見逃してしまうこともある。繰り返し流れる情報もあるが。 映像や簡単なテロップだけだと、見ている人に勘違いされってしまうこともある。 	『テレビからの情報と新聞からの情報それぞれの特徴は何だろう』	【Aーア】 【Cーア】	
2	○突然の災害の情報をどうやってすぐに伝えているか調べる。 (LCV ・長野日報)	<ul style="list-style-type: none"> 8市町村、県の出先機関、ライフライン関係と災害協定を結んでいて、情報を知らせなきゃいけないことになっているんだ。住民からの情報がかかることも多く、大きな災害になるほど、LCVの方が情報を得るのが早いことが多い。 情報を得たら、現場に行き行って取材をして確認している。 岡谷市からだ、市役所の危機管理課から連絡が来る。 災害の情報は、3つの発信方法（ケーブルテレビ・FMラジオ・インターネット）で住民に知らされる。豪雨災害の教訓から、FMラジオを設置した。 H18年の豪雨災害では、災害情報をすぐに発信できる体制を作っていた。3：30頃、住民から情報が入ってきた。 現場にすぐに向かったが、中継車は入ることができず、カメラマンだけが行った。映像を流しながらレポートをするという形で、約1時間後にテレビ放送をした。 災害の様子だけでなく、その後のボランティア受付、温泉無料開放、ライフライン復旧についてなどの細かい地域情報を半月くらい続けた。 H18年の豪雨災害時は、前日から警戒体制をとっていた。 近くに住んでいる記者が、4：30頃、対岸の火災を見て取材を始めた。逃げてくる住民などに様子や安否の確認を聞いたり、実際に見たことをメモ。 岡谷支社では、その後の市の記者会見、消防署、住民、現場の記者、などからの情報を整理して、記事にし本社へ。 新聞は、いろいろな見方があるので、(遺族側に寄り添った書き方、行政の対応の仕方、地質のことなど) まずは、事 	『なぜ、テレビや新聞は、突然の災害の情報をすぐに伝えることができるのか。』	VTR 本 当時の災	

1	<p>○実際の緊急生放送・朝の新聞を見て思ったこと考えたこと</p>	<p>実だけを淡々と書いて伝える。 ・信濃毎日新聞より、より細かく地域の情報を載せた。</p> <p>・LCVの緊急災害情報の放送は、交通情報（通行止め、電車やバスの運行状況）冠水した道・諏訪湖の増水の様子、学校情報など、災害後の今日一日の生活に関わることを伝えようとしているから、便利だな。</p> <p>・実際の災害の様子が、映像で見られるのはすごい。</p> <p>・たったの1時間で、情報が得られるのはいい。</p> <p>・新聞は、災害が起きたことについて詳しく書いてある。被害の様子や、亡くなった人、行方不明者のこと、自衛隊の人数、雨量など、実際に避難やこれからの生活に役立つ情報ではないな。LCVと情報を伝える目的が違うんだな</p>	<p>害直後の緊急災害放送の映像</p> <p>災害発生次の朝の長野日報信濃毎日市民新聞</p> <p>【Aーイ】 【Cーイ】</p>
2	<p>○平成18年に起きた豪雨災害に調べる。</p> <p>○市の危機管理室は、どのようなどころか調べる。</p> <p>○見学に行く。</p> <p>○思ったこと考えたこと</p> <p>○学習問題について話し合う。</p>	<p>・平成18年7月19日に岡谷市の8カ所で土石流が起こり大きな被害があったんだ。ぼくは、まだ5歳だな。</p> <p>・岡谷市の被害は死者8名、負傷者12名、家の被害298棟で、2335世帯6500人もの人が避難所で生活していた。今の東日本大震災みたいな避難生活をしてたんだ。</p> <p>・被害が大きかったのは湊三丁目の花岡区。午前3時くらいから土石流が起こって4時半には大きな土石流が流れてきて大きな被害にあった。すごい速さで怖い。</p> <p>・土石流が起こる前から、川が濁っていたり、臭いにおいがして、前兆があったんだ。どうして早く逃げなかったんだろう。</p> <p>・長野県は、山に囲まれていて土砂災害が起こるってわかりそうなのに、なんで対策を考えてなかったかが不思議だ。</p> <p>・花岡区では午前5時ごろに区の災害対策本部が設置されたけど、自主防災組織はまだ立ち上げたばかりで、あまり役に立たなかった。</p> <p>・消防団は、もう4時には活動を開始していたんだな。無線で連絡を取り合って10名が集まったんだ。その中で、土石流に巻き込まれて亡くなった人は、かわいそう。</p> <p>・土石流が来て、真っ直ぐ走って逃げた人は巻き込まれて、横にどいた人は助かったんだ。逃げ方って大事なんだな。</p> <p>・前日に庭の一部が陥没しているよっていうおばあさんが花岡区に、いたんだ。その時、避難していればいいのにな。</p> <p>・市では危機管理室というところを中心に災害の対応をしてくるけど、諏訪市では災害の前に避難準備情報が出ていた。岡谷市は遅いし、準備がなく突然避難勧告を出して、住民は困らなかったのかな。</p> <p>・花岡区長の小口さんは、4時30分頃、市の危機管理室に電話したけど、すぐうるさくて、対応してもらえなくて電話を切ってしまったらしいけど、危機管理室はどうなっていたのかな。</p> <p>・いろいろなところから情報が入ってきて、対応が間に合わなくて大変だったんだな。ぼくだってきっとパニックになってしまうだろうな。</p> <p>・市の豪雨災害が起こったから危機管理室も変わってきて、情報収集と伝達方法の強化のためにいろいろしてくれていて今は安心だな。</p> <p>・防災無線は、43箇所もスピーカーがあるみたいだけど、よく聞こえない時もあるよ。でも、今は、防災ラジオとつながっているからいいな。</p> <p>・被害が予想されるときにはその大きさによってレベル1かレベル4までの活動を細かく分けているんだ。でも避難勧告を出すか出さないかは、区と相談するなら、また遅れそうだな。</p> <p>・地域連絡員を決めて、地域で何が起きているかをすぐわかるからいいけど、災害が起こってから行っても遅いんじゃないかな。</p> <p>・監視カメラを2つつけて川の様子を見て災害が起こる前にわかっていいな。もっと監視カメラを設置すればいいのにな。</p> <p>・防災マップは、危険なところがわかってすごいいい。全戸に配られているみたいだけど、ぼくの家で見たことないぞ。お母さんに聞いてみよう。</p> <p>・シルキーチャンネルや防災メールで災害の情報を流してくれるからすぐわかっていいな。</p> <p>・でも、今の災害情報で、本当にもう、死者は出ないのかな。</p>	<p>岡谷市の豪雨災害はどんな災害だったのか。』</p> <p>・当日、岡谷市役所の危機管理室・自主防災組織・消防団の動き 花岡区の住民の話 市の危機管理室の見学</p> <p>過去の新聞記事本</p> <p>【Dーイ】</p> <p>当時の危機管理室長 古川さんの話</p> <p>区長の小口さんの子どもの頃の体験</p> <p>【学習問題③】 『わたしたちは、突然の災害時、災害情報では、突然の災害に命を守ることができるのか』</p> <p>{守ることができる}</p> <p>{守ることはできない}</p> <p>○岡谷では豪雨災害を経験してたくさん災害対策ができて古川さんも自信があるって言うていたから大丈夫だ。</p> <p>・今はたくさん方法で、情報を手に入れることができるし、それをわたし達は防災ラジオで聞ける。</p> <p>・LCVでもすぐ放送されるから、それを見れば逃げることができる。</p> <p>・避難勧告規準を4回も決め直しているから、今度は突然出ることはない。</p> <p>・住民への説明会を開いたり</p> <p>○今の岡谷市の災害情報では、一人一人にあった避難方法の情報になっていないから、今の災害情報だけでは命が守れないのではないかな。</p> <p>・夜中や突然土石流が起こったら、岡谷市の災害情報では間に合わない。</p> <p>・でっかい土砂が流されてきたら無理</p> <p>・突然の災害で、防災ラジオをもっていなかったり無線が聞こえなかったりするかも。</p> <p>・実際に避難勧告がでたのは災害が起こってからだし、今は整ってきたけど、地区と相談しながら出すから避難勧告が出てから逃げたのでは遅いかもしれない。</p> <p>・市の防災情報は確かによく知っているしスムーズに動けるようになったけど、下校中とかは情報を得ることができないから無理。</p>

1	<p>○学習課題について話し合う。</p> <p>○中心教材を見て考え合う。</p> <p>○自分が実際に災害にあった時、どうするか考える。</p> <p>○みんなで語り合う。</p>	<p>して、防災対策もちゃんとやっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨量計や監視カメラをつけて、事前に災害が起こりそうになるのがわかるようになった。 新しい避難勧告の規準を出すために基準を決めたから、災害が起こる前に避難できるはず。 メールが配信されたり、L C Vのシルキーチャンネル <p>やホームページにも災害の情報がすぐに流されたりしているから、そういうのをきちんと聞けば守れるんじゃないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろなことを想定して訓練をしてきているから、あとは一人ひとりが自分を守っていくしかない。市の災害情報で大丈夫だよ。 <ul style="list-style-type: none"> 自分で避難するっていつでも雨量のこととか専門的なことはわからないよ。やっぱり市の情報もないと判断に困るよ。 今どんな状態かの情報がないと避難場所までの道もわからないから、途中で命を落とすかもしれないじゃん 地質や逃げ方のことだけ知っていても、市の情報がないといつ逃げたらいいか判断できないじゃん。 <p>○市の災害情報と地域のことを知っているだけでは命を守ることができないかも。わたしの家から避難場所に行くまでに川があって、避難場所に行けないかもしれないから、どこに逃げたらいいかは自分で調べていかないといけない。</p> <p>○家の裏にはすぐ山があって危ないと思った。その山はどういう山なのか、何か災害があったのか自分でも地域の歴史や地質についても調べていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 裏の山の地質をおじいちゃんに聞いてみようかな 避難場所の神明小学校まで遠いから、自分で避難場所になりそうな所を探してみよう。 あのうちのおばあちゃんは、足が悪いから声をかけて一緒に逃げよう。 前にあったということがわかれば、やばいって思うのが早くなるかもしれないな。 	<p>【学習課題③】 『事前に、たくさんの災害情報があれば、人は避難するのか』</p> <p>花岡区長小口さんの話 「花岡地区の歴史と地質」 「信大の研究会が行った花岡区の地質についての新聞記事」 「津波でんこ」の新聞記事</p> <p>【Bーイ】</p> <p>リアルタイムの災害情報と地域のことや過去の災害から学んだことの情報などを重ねて判断することが大事であることに気づき、災害が起きた時、命を守るために、自分がどう情報を使っていくかを考えることができたか</p>	<p>○すべての家に情報を伝えるのは無理なんじゃないかな。情報を得られない人だっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 監視カメラは二つしかないから、カメラがない場所で何か起こっていてもわからない。 避難勧告を出しても、どう動くかは住民次第じゃないかな。 花岡地区のおばあちゃんは前日に庭が陥没していたのに、避難の指示が出ていないから、全ての人にあった避難勧告が出される訳じゃないよ。 消防団の人だって救助活動をして亡くなってしまっている。どこが危ないとか知らせてくれないんじゃないかな。 市の方に細かい情報まで入ってこない。土砂崩れが起こって、その土砂がどこまで流れて、どこに行くかまでは伝えられない。 避難場所まで行けない人もいるし、そういう時は自分で決めなきゃならないよ。 豪雨災害でも上に住んでいる家の人は間に合わなかったんだし、情報を得られない人もいる。やっぱり市の災害情報では限界がある。 全部の家は守れない。 水をためやすい山だってことがわかっていれば、早めに逃げようって思ったと思う。早く知ってればよかったのに。 逃げ方だっていろいろ知っておくことが大事だよ。実際に豪雨災害でも縦に逃げた人は土砂に巻き込まれて、横によけた人は助かっているよ。そういうことを知っておくと自分で自分の命を守れるよ。 てんでばらばらに逃げるなんて考えたこともなかった。そういう逃げ方もあるのか。 いろいろ知っておくことが、いざ逃げなきゃならない状態になった時、役に立つんだな。 そっか、逃げる時だって判断するのは、市の情報が役に立つな。両方必要なんだ。
---	--	---	---	--

4 本単元で扱う”教材の本質”について

『岡谷市役所の危機管理室の災害情報ネットワークから出されるリアルタイムの情報』（テレビやラジオなどから次々に流れてくる情報）と”地域のこと（歴史・地質など）や過去の災害から学んだことなどの過去の情報”（新聞や本など文章にまとめられることにより得られる情報）が重なった時、主体的な行動（避難する）になるということ』ととらえた。

人は、災害が起こった時、その時、その場ですぐに役に立つようなリアルタイムの情報や適せつな指示を求めたがる。しかし、一人ひとりの危機意識があってこそ、そのリアルタイムの情報が生きてくる。その2つが重なった時にこそ、人は「逃げなきゃ！」という主体的な行動につながっていくのではないかと考える。そして、災害を自分ごととして考えた時、自分で命を守るために、日頃からどんな情報を集め、その場でどんな情報が必要になってくるかを判断して考えることが必要になってくる。これは、日々の生活も同じである。”情報”という観点で考えた時、今の情報と過去の情報が重なった時に、よりよい行為につながっていくことが多いのではないかと考える。

5 本時案

(1) 学習のねらい

人が命を守るためには、岡谷市の災害情報ネットワークから出される情報（リアルタイムの情報）では、突然の災害が起こった時に、間に合わないのではないかと考え始めた子どもたちが、小口さんの話（過去に花岡区で土砂災害が起こったという事実・花岡区の地質）の新聞記事と「津波でんでんこ」の新聞記事から考え合うことを通して、リアルタイムの災害情報と地域のことや過去の災害から学んだことの情報などを重ねて判断することが大事であることに気づき、災害が起きた時、命を守るために、自分がどう情報を使っていくかを考えることができる。

(2) 学習の展開

過程	学習活動	予想される子どもの反応	時間	指導と評価
突然の災害では、岡谷市の災害情報ネットワークから出される情報（リアルタイムの情報）では、間に合わないのではないか	1. 岡谷市の災害情報ネットワークを基に学習問題について話し合う。	<p>私たちはこの災害情報で命を守ることができるのか。</p> <p>○岡谷市では豪雨災害を経験して、いろいろな災害対策ができてきたから大丈夫だよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災無線が43カ所も設置されているし、防災ラジオでも聞けるから災害のことがすぐわかる。 ・地域の連絡員を決めたから、地域でおこったことはすぐに伝わる。 ・雨量計や監視カメラをつけて、災害が起こりそうになるのがわかるようになった。 ・電話が繋がらないときでも移動防災無線を使って連絡が取れるから情報が集まる。 ・新しく避難の情報を出すために基準を決めたから、災害が起こる前に避難できるはず。 ・メールが配信されたり、LCVのシルキーチャンネルやホームページにも災害の情報がすぐに流されたりしているから、そういうのをきちんと聞けば守れるんじゃないかな。 ・消防団はすぐ動けるし、市とも連絡を取り合っているから助けに来てくれる。 ・自主防災組織があって、市よりも早く避難勧告を出すこともできるから、逃げられると思う。 <p>○今の岡谷市の災害情報では、一人一人にあった避難方法の情報になっていないから、今の災害情報だけでは命が守れないのではないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・突然土石流が起こったら、岡谷市の災害情報では間に合わないからあまり意味がない。 ・実際に避難勧告がでたのは災害が起こってからだし、今は整ってきたけど避難情報が流れないかもしれない。だから、避難勧告がでてから避難したのでは遅いかもしれない。 ・防災無線は聞こえづらいし、ラジオは持っていなかったり、聞けないときもあったりするから、当てにならない。 ・監視カメラは二つしかないから、カメラがない場所で何か起こっていてもわからない。 ・花岡地区のおばあちゃんは前日に庭が陥没していたのに、避難の指示が出ていないから、全ての人にあった避難勧告が出される訳じゃないよ。 ・消防団の人だって救助活動をして亡くなっている。どこが危ないとか知らせてくれないんじゃないかな。 <p>○今の災害情報は何が起こったかを伝えていて、一人一人がいつでもどのように逃げたらいいかの情報はないから、突然の災害の時は、間に合わないんじゃないかな。</p> <p>○今の情報と地域のことや過去の災害から学んだことの情報などをつなげて判断して、やっと避難する行動になるんだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔のことを知っていたら、災害が起こると思って、避難勧告を待たないで、自分から避難するよ。 ・花岡区にある山は水をためこむ山だから大雨が降ると土石流が起きる可能性が高いのかもしれないとわかって自分で避難をして、身を守ることができるかもしれない。 ・東日本大震災のときはばらばらに逃げたらいいと 	15	<p>○市の災害情報ネットワークの利点や課題などが見えるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一発言者には市の災害情報ネットワークが岡谷市の豪雨災害から整備され、住民を守るために情報伝達の工夫をしていることについて着目している子を指名し、災害情報ネットワークの利点から話し合いを始めていきたい。 ・自主防災組織、雨量計の設置、降雨量に応じた防災への細かな取り決め、LCVが発信する情報など学習した事実から考えを語り始めたら図や既出の資料などで確認していく。
	2. 突然の災害では、岡谷市の災害情報ネットワークから出される情報（リアルタイムの情報）では間に合わないか話し合う。	<p>○今の災害情報では、一人一人にあった避難方法の情報になっていないから、今の災害情報だけでは命が守れないのではないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・突然土石流が起こったら、岡谷市の災害情報では間に合わないからあまり意味がない。 ・実際に避難勧告がでたのは災害が起こってからだし、今は整ってきたけど避難情報が流れないかもしれない。だから、避難勧告がでてから避難したのでは遅いかもしれない。 ・防災無線は聞こえづらいし、ラジオは持っていなかったり、聞けないときもあったりするから、当てにならない。 ・監視カメラは二つしかないから、カメラがない場所で何か起こっていてもわからない。 ・花岡地区のおばあちゃんは前日に庭が陥没していたのに、避難の指示が出ていないから、全ての人にあった避難勧告が出される訳じゃないよ。 ・消防団の人だって救助活動をして亡くなっている。どこが危ないとか知らせてくれないんじゃないかな。 <p>○今の災害情報は何が起こったかを伝えていて、一人一人がいつでもどのように逃げたらいいかの情報はないから、突然の災害の時は、間に合わないんじゃないかな。</p> <p>○今の情報と地域のことや過去の災害から学んだことの情報などをつなげて判断して、やっと避難する行動になるんだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔のことを知っていたら、災害が起こると思って、避難勧告を待たないで、自分から避難するよ。 ・花岡区にある山は水をためこむ山だから大雨が降ると土石流が起きる可能性が高いのかもしれないとわかって自分で避難をして、身を守ることができるかもしれない。 ・東日本大震災のときはばらばらに逃げたらいいと 	23	<p>・市から出される災害情報ではいつ、どこへ、どのように避難すべきかの情報がなく、突然の災害時には、間に合わないのではないかと考え始めたところで学習活動2に移る。（→学習課題）</p> <p>○中心教材から考え合う場を設け、市の情報と地域のことや過去の災害から学んだことなどを重ねて判断していくことが大切であることを考えさせたい。</p> <p>《中心教材》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○花岡区長小口さんの話「花岡地区の災害の歴史と地質」 「信大の研究会が行った花岡区の地質についての新聞記事」 ○「津波でんでんこ」の新聞記事 <p>・災害情報と地域のことや過去の災</p>

<p>災害情報と地域のことや過去の災害から学んだことの情報などを重ねて判断して避難することが大事だ。災害があった時、自分だったらどうしてらこう。</p>	<p>3.自分だったら、災害が起きたときにどうやって命を守るか考え、学習カードに書く。</p>	<p>言い伝えがあって助かった人がいるんだ。こういうことを知っているのと逃げ方もわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史や地質だけを知っていても、今の様子がわからないと逃げるようにはならない。 これだけでは足りないよ。避難場所に行くためのいろんな道を知らないと危ないよ。 どんな風に逃げたらいいかわからないと逃げる途中で災害に遭ってしまうかも。 <p>○市の災害情報と地域のことを知っているだけでは命を守ることができないかも。わたしの家から避難場所に行くまでに川があって、避難場所に行けないかもしれないから、どこに逃げたらいいかは自分で調べていかないといけない。</p> <p>○家の裏にはすぐ山があって危ないと思った。その山はどういう山なのか、何か災害があったのか自分でも地域の歴史や地質についても調べていきたい。</p>	<p>害から学んだことの情報などを重ねて判断することが大事だという考えが深まってきたところで学習活動3に移る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価】 リアルタイムの災害情報と地域のことや過去の災害から学んだことの情報を重ねて判断することが大事であることに気づき、災害が起きた時、命を守るために、自分がどう情報を使っていくかを考えることができる。</p> </div>
--	---	---	--

6 子どもの関連思考を支える中心教材（学習材）について

【小口さんの話（花岡地区の災害の歴史と地質）と新聞記事】

当時、花岡区長で実際に豪雨災害を経験した小口さんは、西山で過去何度か同じような土砂崩れがあったこと、その土は粘土質であることが地質を調べた信大の教授の調査からわかったという。そして、今思うと、この土砂崩れの歴史は花岡区誌に書かれているし、水をためやすい山であることは、いろいろな経験から気づいていたという。これは、災害後に新聞に載り、我々にも情報として入ってきた。このことを最初から知っていれば、この山の麓に住んでいた人は、リアルタイムの情報（雨量や川の様子など）を聞いた時、「これは、逃げた方がいいな」と考え、避難勧告が出なくても避難するという行動につながると思うことができるのではないかと考えた。

【津波でんでんこの新聞記事】

これは、東北地方で言い伝えられている、でんでんバラバラに逃げる方法である。東日本大震災でこの本来なら東北地方の人々しか知らない言い伝えだったかもしれないものが、新聞により遠く離れた私たちも知ることができた。これは、実際に津波が近づいてきたというリアルタイムの情報と昔からの言い伝え（過去の情報）が重なって、避難し、自分と人の命を守ったといういい例だと考えた。

日頃から、地域の歴史や地質・過去の災害から学んだことなどを知っておくことの大切さに気づくと同時に、その過去の情報を私たちに伝えてくれるのが、文字にしてまとめてある本や新聞などであるというよさも感じるのではないかと考えた。

②

斜面
2011.9.9

「津波でんでん」今度の大震災で心に刻んだ言葉である。津波の時はでんでんバラバラに逃げる。三陸地方の言い伝え。冷たい教えでなく、必死に逃げる姿は周囲への警告にもなる。どうも率先して避難する姿勢は、岩手県釜石市の「津波防災教育」の柱の一つになっている。今回の震災でそれが生きた。釜石東中学校の生徒は自主的に高台の避難所へ向かった。隣の小学校の児童は、一緒に歩いて行って助かっている。子どもたちが懸命に逃げる姿を目にし、家に残っていた近くの住民も慌てて避難を始めたという。地震の当時、多くの児童が帰宅していた釜石小学校によれば、津波なんか来ないからと動こうとしない祖父母に、孫たちが促して高台へ避難したケースもある。


次信濃毎日新聞より
(二〇一一年九月九日)

①

激しい雨で再発も
岡谷市湊 小田井沢川流域の土石流

調査 万一の備え 必要性指摘

信大の研究会



調査個所
八重塚沢川
小田井沢川

次長野日報より
(二〇一六年八月九日)

【5年1部授業記録の抜粋と考察】

学習問題『市の災害情報で、本当に命は守れるのか』

(2/16)

- 3 永太：悠斗くんに似ているんだけど、自然災害はいつ起こるか分からないし、寝ている時に避難勧告とかは聞こえないから守れないと思う。
- 5 凜子：守れないと思って、住民の説明会をやっているっていうけど、すべての人が行くわけではないし、詳しいことはあまり知らないと思うし、ガイドブックとか資料とかは、住民は買わないと思うから、災害が起こった時、あまり詳しいことは知らないと思うから、うまく行動はできないと思う。
- 7 藍子：守れないと思うんだけれど。住民の人に伝達するのは、確かに早くなったと思うし、住民の人も訓練とかして、動きはわかっていると思うんだけれど、実際に土砂とか起きるとパニックになって、訓練でやってきたことができなくなっちゃって、死者とか出ちゃうんじゃないかなって思う。
- 8 菜々子：私は、命を守ることはできないと思って、前LCVのとかで、家で何かして避難するのが遅くなっちゃったり、前、東日本大震災の時に、なんかおばあちゃんが、ここで死にたいから避難しないって言っていたから、いくら災害の委員の人とかがやってても、個人の情報じゃなくて、個人のことまでは無理だと思うから…
- 9 T：LCVのことってなんだっけ？
- 10 菜々子：先生が取材に行ったとき、カメラマンの人が話を聞いたのかもしれないんだけど、お父さんが、いろいろやって、たぶんみんなが先に逃げてきちゃったと思うんだけれど、お父さんが戻ってこないって言ってたし、東日本大震災の時も、なんか、おじいちゃんやおばあちゃんに避難してもらおうのは大変だから、無理だと思う。
- 11 T：LCVってみんなで見たやつ？覚えてる？心配した家族が言ってたんだよね？なんで家族は逃げたんだっけ？避難勧告？3時のやつだっけ？東日本のやつは逃げろって言われても逃げなかった…
- 18 杏子：一くんに反対で、防災訓練にすればいいって言ってたんだけど、防災訓練とかに用事とかで行けない人もいるから、少しは近所の人とかにそういうことを教えてもらえるかもしれないけど、全部は教えてもらえないから、訓練では、だからそれでは守れない。

【考察①】

①学習問題『私たちは、市の災害情報で本当に命は守れるのか』について

- ・災害が迫ってきている“事前”のことについて考えている子（5凜子・8菜々子・18杏子など）と突発的に起きた災害の“寸前”のことについて考えている子（3永太・7藍子など）が、混合した話し合いになってしまった。教師が、しっかり整理をしなかったため、学習課題も中心教材（学習材）もはまりきらない面があった。

- 22 T：あの～こっちの立場のみなさんは、「市の災害情報が、もっと、こうならないと守れない。」ってことを言うてるよね。「逃げ方まで教えてくれなきゃ。」「間に合わないから早く情報が来なきゃ。」「ちゃんとみんなに聞こえなきゃ。」こっちの反対の立場の人たちもさ、「市の災害情報って、こんなことがよくなってきたよ。」って言うてるじゃん。どちらの立場の人も「もっと市の情報が完璧になれば…」「市の災害情報が完璧に近づいてきたよ。」って市の災害情報のことについて言っているよね。でもこっちの人たち（下の方に板書した人たち）は、ちょっとがくなく？星子さんは、「一人ひとりの意識が高まってきているよ。」藍子ちゃんは、「突然の災害の時は、結局パニックになってしまうよ。」菜々子ちゃんは、「結局、逃げるって決めるのは個人の問題だよ。」って。（C：あ～本当だ。うん、うん他）みんなは、このことについてどう思う？
〔板書〕『市の情報が完璧になれば、命は守れるのか。』（学習課題設定）
- 23 杏菜：完璧になったとしても守れないと思って、近くに防災ラジオを置いておいたとしても、夜とかに起きたとしてもサイレンとかうるさかったとしても、もう少しねかせてよ、みたいに思っちゃうと思うから守れないと思う。
- 24 いぶき：私も守れないと思って、どうしたらいいんだろうとか、何をしたらいいんだろうとか思って動けなくなっちゃうから守れないと思う。
- 25 昭武：聖斗くんが言ったことと似ているんだけど、パニックになっちゃうと、訓練とかの時はできるんだけど、教えてもらったりしてできるんだけど、いざ起こった時、どうするんだっけってあやふやになっちゃって逃げれないとかパニックっちゃったりするから、それで逃げ遅れちゃう。
- 26 玲那：守れないんじゃないかなって思うんだけど、前校長先生とかが、避難訓練とかに真剣にやらないと本番とかにできないって言ってたんだけど、ほとんどの住民は、訓練だからって思って適当にやって普通に訓練をやっているかもしれないけど、ちゃんとやらない人もいるから命は守れないと思う。
- 27 凜果：避難訓練とか自分たちでやっていると思うんだけど、訓練はそんなにまじめにやってないと思うし、住民の証言ってやつに、右の方に逃げれば安全とか冷静に考えられる人はよっぽど訓練をしている人だと思うし、避難訓練とか行かない人もいると思うし。守れないと思う。
- 29 T：みんな、じゃあ、市の情報完璧でも、あまり意味がない？
- 30 C：命を守れる人もいると思うけど、全員じゃない・・・など パニックになりそう
- 31 T：パニックになりそう？横にぼんっと逃げた人とかは、どんな気持ちだったんだろうね。逃げ方知ってたってことか？パニックにならないには、どうしたらいいのかな。
- 32 C：死にたくないって思う、深呼吸する・・・など

【考察②】

②学習課題『市の災害情報が完璧になれば、命は守れるのか』について

- ・5凜子「説明会はすべての住民が行くわけではない、防災マップやガイドブックは住民はあまり買わない。」18杏子「防災訓練は、用事とかで行かない住民もいる。」23杏菜「夜中になっても、もう少しねかせてよ、みたいに…」などから、事前の住民の危機意識のなさと事前の市の災害情報の強化されてきたこと・不十分なことのズレを取り上げたかった。

しかし、ここでも、“事前”と“寸前”が整理されないまま学習課題を設定してしまったので、「パニックになってしまう」という考えが大きく占めてしまい、「命は守れない。」という意見しか出ず、対立していかなかった。どんなにいろいろなことを完璧にしておいても、人間は、パニックになったらうまくいかないのは当たり前である。そのことを言い出したらもう話し合いにはならない。

- 33 T : 死にたくないって思うほどあせっちゃうね・・・
では、ちょっとこれを見てほしいんだけど→中心教材(学習材)提示
- 37 T : どんなこと思った?
- 38 媛子 : この新聞を読んで、花岡区は粘土状になっていて、また土砂災害が起きる可能性があるから、お父さんのこととか考えないで、とにかく自分のことだけを考えて逃げる
- 41 杏子 : 調査をして粘土状になっていて、また台風とか起きたら土砂災害が起きるかもしれないから、②のてんでんばらばらとにかく逃げろっていうのをやって逃げればいいんじゃないか
- 42 悠太 : ②の最後のところを書いてあるんだけど、個人の意識のところ、孫とかは逃げるんだけど、祖父母とかは、まだ来ないって思って逃げないってあったから、個人個人の危ないとかの意識だと思うから、逃げるのとかは来ないとか思っている人とかは巻き込まれてしまう人もいると思うから、そういう人は命が危ないんじゃないかな。
- 44 奨太 : ②の最後のところで、孫は訓練とかしてちゃんと高台に避難したけど、祖母は、大丈夫だと思って巻きこまれちゃうと思う。祖父母とか、そういう人とかに避難とか、危険性を伝えていけばいいと思う。
- 47 奈那子 : ②のところにてんでんばらばらとにかく逃げろって書いてあるけど、横に出ずに、下に逃げてしまう人もいるかもしれないから、とにかく逃げろじゃなくて、もっと詳しく新聞に書いてほしい。
- 50 T : じゃあ、もう時間がきてしまったので、書いて終わりにしたいんだけど、市の災害情報や防災対策が強くなってきたことを勉強して、もっと災害情報が完璧になればいいということを考えて、地層のこととか津波でんでんこのこととか新聞で読んで、自分が災害に合ったときにどうするか考えて、書いて終わりにしたいので書いてみてください。
- 51 萌子 : 水をすわないってことを新聞には書いてあるけど、新聞を見てない人は知らないから、もっと水をすわないってことを伝えていけば、たくさん雨が降った時に、(土砂災害が起きる前に、逃げなきゃって思うと思うから) 私たちが、もっと地層のこととか知らないといけないと思う。
- 52 T : わたしたちが知らないといけない 知っていたら逃げるみんな?
- 53 C : とにかく逃げろだとまっすぐ逃げる人がいるから逃げ方とか決めておくといい・・・
- 54 昭太 : 自分のすぐ近くに変な音とか聞こえたら、外に出て 出ても間に合わないってこともあるから、内の中にいたら、2階にすぐいけば、ひっかかって逃げられるかもしれないし、つぶされないからそういう風に・・・
- 55 T : 自分の命守れそうかな、この市の情報はいらないか
- 56 C : う・ん あんまり意味がないかも
- 57 萌子 : (今、何が起きているかの) 情報が手に入らないと逃げられないじゃん。
- 57 T : 情報が手に入らないと逃げられない・・・ならいるじゃん
- 58 C : 助けるための情報じゃなくて、住民が逃げるための情報をもっとあればいい

③中心教材(学習材)について

- ・この中心教材は、事前の一人ひとりの危機意識につながるものであった。しかし、中心教材を出した後の感想で、「水をすわない山だってことをもっとみんなに伝えて、災害が起きた時に早めに逃げるようにする」と発言した51萌子や「一人ひとりの意識の問題」と発言した42悠太がいる一方で、「てんでんばらばらに逃げればいい」と発言した41杏子、「とにかく自分のことだけ考えて逃げればいい」と発言した40媛子「とにかく2階に逃げる」と発言した54昭太のような発言も多く、気づいてほしい内容には達しない子どももいた。やはり、急に起こった災害の寸前の行動に頭がいつていることが原因であるのではないかと思う。

④事実認識について

- ・事実認識は、時間をかけて十分行つたつもりでいた。しかし、専門的な言葉がたくさん出てくる中で、市の危機管理課の方のお話や担任の説明が主なものになっており、概念上で終わってしまい、一つ一つのことについて細かい理解までには至っていなかった面があった。もっと、災害後の市の防災対策について、一つひとつじっくりと調べていく必要があった。そうすれば、危機管理室の方々の苦労や市民を一生懸命守ってくれている思いをもっと感じると同時に、私たち市民の危機意識の大切さに早く気づいていけたのだと思う。

○成果と●課題

新聞記事の活用について

- 今年度は、社会科の授業の中で、担任が用意した学習材や資料として子どもたちに提示し、子どもたちの事実認識の手助けをしたり、子どもたちの考えを広め深めたりするものとして活用した。また、日々の生活の中では、担任が選んだ記事を、音読・要約・感想書きなどの宿題にしたり、毎日、自由に読めるように掲示したりした。それにより、子どもたちは、「新聞を読む」ということについて抵抗感が少なくなり、わからない漢字や難しい言葉がある中でも、自力で読み、その中からわかったところに自ら線を引いたり、友だち同士で聞き合ったりしながら読むようになっていった。また、「もっと新聞はこうしてほしい。こういうところはおかしい。」など気づく子どもも出てきた。

- 日々の生活の中で、子どもたちが自ら、自由に新聞を読み、授業の資料として、または自分の考えの裏付けとなるようなものとして見つけてくるまでには至らなかった。(条件を出したり、場を設定すればできるが。)新聞の内容も、小学生には難しい。教師の手助けなしに、自分から興味をもって新聞を開く子にするにはどうしたらいいのか、今年度は、課題にし、考えていきたい。